

- ・問題の作成上、表現・表記をあらためた部分がある。
- ・字数制限は、句読点・記号を含むものとする。
- ・答はすべて解答用紙に記入すること。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人生には、大きな分岐点ぶんきてんがあります。その一つが自分の進路を決めることです。きわめて重要なことですから、慎重じんじゆうに考えて思い悩なやむものでしょう。

② また、決めた後にこんなはずではなかったと後悔こうかいするケースも珍めずしくありません。

□ I、飛び込んでみなければ、ケツダンaしてみなければ、わからない、あるいは見えないことは山ほどあるのです。もつと具体的なケースで説明します。

私は「この会社に入ったら安泰あんたい」「あの団体に所属していれば、うまくいく」というのは、ありえないと思っています。現在ある会社も百年後にはなくなっているか形を変えているのが大部分で、それは「諸行無常しよぎやうむじやう」、自然の摂理せつりでもあります。③ 変化やうつろいは人の想像力をはるかに超こえているものですし、その法則は時代が変わっても変わらない普遍的ふはんなものでもあります。

《類は友を呼ぶ》という言葉があります。

一つのグループにいるということは、多かれ少なかれ何か共通項きゆうこうがソンザイbするのではないのでしょうか。そして、そこにいる人たちもそれぞれに進化を続けています。

④ 極端きよくたんな例かもしれませんが、草野球をしている人がメジャーリーグの選手たちの仲間に入ったとします。

あまりに能力が違いすぎて、その人にとっては「地獄じじく」の環境でしょう。逆に、メジャーリーグの人が草野球に感化しても物足りなくタイクツcでしょう。

d 居心地いこころというのは、能力だけで決まるわけではありませんが、一つのグループにいたとしても、人によって「天国」にも「地獄じじく」にもなるのです。

⑤ II、環境は不変のものではなく、時間とともに変わる可能性もあります。

「地獄」だと思っていたとしても、そのグループの中で自分とほかの人との共通項をたくさん見出すことができれば「天国」に変わるはずですよ。

ですから、自分の現在の状態に合ったグループ、進路を見つけることはとても重要なのです。

III、リーダーシップのある人というのは、所属したグループの人々や本人も快適な環境にミチビクeことができる人だと思います。

まさに「朱しゆに交わればIVくなる」ですね。

（「迷いながら、強くなる」 羽生 善治）

※1分岐点…道路や物事のわかれるところ。

※2諸行無常…仏教の根本思想の一つ。万物は常に変化して、少しの間もとどまらないということ。

※3普遍的…広く行き渡るさま。また、すべてのものにあてはまるさま。

受験番号

問一 〓 a e のカタカナを漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。送り仮名がある場合は正しくつけること。

問二 ①「慎重」には「注意深く考える」という意味があります。この熟語の対義語を、後の漢字を使って作り、読みも書きなさい。

(冷・失・軽・導・卒・率)

問三 I 〓 III に入る言葉を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア そして
- イ つまり
- ウ しかし
- エ だから
- オ また

問四 ②「決めた後にこんなはずではなかったと後悔する」とありますが、これと同じ意味のことわざを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 馬の耳に念仏
- イ 鬼の目にも涙おに なみだ
- ウ 青菜に塩
- エ 覆水盆ふくすいに返らず

問五 ③「その法則」とは何ですか。本文中から五字でぬき出しなさい。

問六 ④「能力が違いすぎて」とありますが、何と何を比べているのですか。本文中からぬき出しなさい。

問七 ⑤「環境は不変のものではなく、時間とともに変わる可能性もあります。」とありますが、そのためにはどのようにすることが重要なのか。文の終わりが「〓が重要」となるように本文中から三十字以内でぬき出しなさい。

問八 IV に入る色を漢字一字で答えなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

カサブタをみちるちゃんに貸してあげるのは、やろうと思えばできると思った。ただし、みちるちゃんが A 貸してほしいと言ったらだ。 B みちるちゃんがお隣の船乗りさんからもらったお人形を貸してくれなくても、お願いされたら、カサブタを貸してあげようと思っていた。

ところが、みちるちゃんは、カサブタのことを、「くまなのにブタってなまえはへん」と笑った。生えかかった大きな奥歯おくがのぞくほど口を開けて。

① C 、「うてなは「へんじやない」と言い返した。理由は説明できなかったから、「へんじやない」と言い続け、そして泣いた。去年の夏まで、「カサブタ」には名前がなかった。「うてなのくまちゃん」ということで家の中では通っていた。名付けられたのは、弟が生まれた晩だ。

うてなが公園のブランコから落ち、ひじに傷をオaったとき、おかあさんのお腹はもうだいぶくらんでいた。おかあさんは、りんげつという状態だった。

数日経つてうてなのひじの傷跡あとに赤黒い皮が発現した。おねしよの染bみみたいなかたちをしていて、イタcがゆかった。はがしてはいけないとおかあさんに言われていたけれど、うてなははがしたくてならなかった。

ひっかけるようにしてみたら、はがれそうな手応えがあった。血がふき出しそうな予感もあったが、はがしてしまいたい気持ちのほうdがユウセイだった。カレーライスを食べ、のどが渴かわき、お水がほしくてたまらないときとおなじくらい、うてなは赤黒い皮をはがしたかった。

ぐっと堪えたのは、うてなはもうおねえさんだから、と、ことあるごとに、おかあさんに言われていたからだ。お風呂で傷をいじったときも、そう注意された。おねえさんは赤黒い皮をはがしてはいけならしい。赤黒い皮はカサブタというらしい。ひじのカサブタが自然とはがれ落ちていたのは、おかあさんが病院に行った朝だった。うてなが起きた時間には、おかあさんはいなかった。代わりにおとうさんのほうのおばあちゃんがいた。

もうすぐ弟か妹が生まれるよ、とおばあちゃんはニコニコと納豆をかき回していたが、うてなはニコニコできなかった。おかあさんを病院に送ってきたおとうさんもニコニコしながら納豆をかき回していたが、うてなはニコニコできなかった。黙って納豆をかき回した。

会社から帰ったおとうさんと、おじいちゃんと、おばあちゃんと四人で病院に行った。

おかあさんはベッドで寝ていた。枕もとには弟が寝かせられていた。弟はすごく小さかったが、昨日までおかあさんのお腹の中に入っていたと思えば、すごく大きかった。おかあさんはまぶたが **E** 腫れていて、知らない子どものおかあさんのようだった。うてなは弟の毛の薄い頭をさわらせてもらった。なまあたかくて、柔らかくて、湿っていて、少し気味が悪かった。皮膚も顔つきも、生まれたてのうさぎに似ていたが、おかあさんに「かわいい？」ときかれたので、うてなはアサくうなずいた。ビデオと写真を撮り、病室を後にする段になった。

「カサブタ、とれたよ」

「あしたのばんもまたくるからね」

うてながおかあさんに言えたのは、ふたこときりだった。なみだが出そうになって、くちびるがぶるぶる震えた。でも、必死で耐えた。病室の窓から夜空が見えた。閉めたはずのカーテンがほんの少しだけ開いていたのだ。

家に帰ってベッドに入り、病室で見た細長い夜空を思い出しながら、うてなはくまのぬいぐるみに話しかけた。声には出さなかったが、おかあさんに言ったのと同じことを言った。くまのぬいぐるみが「えらかったね」とほめたそうにしたので、「おねえさんだから」と答えた。「だって、うてなはもうおねえさんだから」と繰り返したらおえつがもれた。

こんなに長い話をみちるちゃんに語るのは、うてなには無理だった。

「カサブタはカサブタなの」

④ というだけで精一杯だった。おさまりがつかなかったので、みちるちゃんのお人形の悪口を言った。みちるちゃんのお人形は、顔と手足がお茶碗みたいに硬くて、つるつるしていた。プリンセスのようなドレスを着ているが、顔は怖い。

〈 略 〉

※1

※2

※3

みちるちゃんは最初「アンティック」とか「ビスク」とか「フランス」といった単語を駆使し、このお人形のよさがわからないなんてバカみたいというようなことを手のひらで髪の毛をなでつけながら、ひとしきりしゃべっていたが、**F** お人形を打ち捨て、クローゼットからプリキュアのおもちゃをどっさり出した。

〈 略 〉

つまり、うてなはみちるちゃんとそんなに仲よく遊べなかった。みちるちゃんはプリキュアにさわらせてくれなかったから、うてなもカサブタをさわらせなかった。

なのに、つい、長居してしまったのは、みちるちゃんのおかあさんに何かというとほめられたからだ。みちるちゃんのおかあさん

は、みちるちゃんの代わりに何度も謝あやまった。「みちると仲よくしてあげてね。また遊びに来てね」と、うてなに何度もお願いした。

(「たからばこ」朝倉かすみ「少しだけ、おともだち」から)

※1 アンティーク：古美術品。また、そのようなおもむきのあるもの。

※2 ビスク：白い素焼きの焼き物で作った人形。ビスクドールのこと。

※3 駆使：思いのままに使いこなすこと。

問一 〓 a k e のカタカナを漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問二

A
F

 にあてはまる言葉を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア ためしに イ ちよっと ウ もちろん エ どうしても オ やがて カ たとえ

問三 ① 「去年の夏まで、「カサブタ」には名前がなかった」とありますが、この「カサブタ」に関する話はどこまで書かれていますか。最後の五文字を文中から探し、五字でぬき出しなさい。

問四 ② 「うてなははがしたくてならなかった」という「うてな」ですが、はがさなかったのはなぜですか。文中の言葉を用いて説明しなさい。

問五 ③ 「なみだが出そうになって、くちびるがぶるぶる震えた。でも、必死で耐えた」とありますが、このときの「うてな」の心情を説明した次の各文のうち、最もあてはまるものを選び、記号で答えなさい。

ア 母親に話したいことがもつとあったのにわずかしか話せず残念だったが、そのことを口に出すと、母親のことをますます他人のように感じてしまうかもしれないとおそれている。

イ 母親にカサブタのことを話しても返事がなく悲しかったが、泣いてしまうと母親が心配してますます疲れてしまうかもしれないとがまんしている。

ウ カサブタをはがさずにがまんしたことを母親にほめてもらえず悲しかったが、ここで泣いてはおねえさんになったと言えないと感じてこらえている。

エ かさぶたをはがさなかったことを母親に伝えることができずとす思いと、心配をかけたことを申し訳なく思う気持ちがあふれそうになっている。

問六 ④ 「おさまりがつかなかった」とありますが、ここではどういう状態のことを指してこのように言っているのですか。最もあてはまるものを次から選び、記号で答えなさい。

ア みちるちゃんに笑われたままで、うてなが反論できていないこと。

イ うてながみちるちゃんにカサブタの理由を語るのが無理なこと。

ウ みちるちゃんがカサブタを貸してほしいと言わないこと。

エ うてながみちるちゃんのお人形の悪口を言うこと。

問七 うてながみちるちゃんの家に長時間いたのはなぜですか。理由を文中から二十六字でぬき出しなさい。

問八 うてなはみちるちゃんに、どうしてくまのぬいぐるみの名前が「カサブタ」なのか説明できませんでしたが、あなたならどのように説明しますか。答えなさい。

☐ 次の問いに答えなさい。

問一 次の文は二通りの意味にとれます。あとの1、2の意味になるように言葉の順序を入れ替えて文を完成させなさい。

わたしはお菓子を食べながら本を読んでいる弟にえんぴつを手渡した。

- 1 お菓子を食べているのは「わたし」である。
- 2 お菓子を食べているのは「弟」である。

問二 次の各文の□にあてはまるひらがな入れて、意味の通る文にしなさい。□一つにひらがな一字が入ります。

- 1 もし見つかつ□□、もう役には立たないだろう。
- 2 雨□□降らなければ、大会は開催できたのに。
- 3 大したものありませんが、コーヒー□□いかがですか。
- 4 このチームのキャプテンを任せられるのは、彼□□いない。

